

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司
発行元：座間市相模が丘3-24-2-203
連絡先：046-204-5911 (ファックスも同じ)

おぎはら健司の市政リポート

解散風邪にご用心！

暦の上では冬を向かえ、いわゆる冬将軍が来襲し、今朝から本格的な寒さとなるそうですが、風邪など体調管理には十分お気をつけください。

昨日(11月13日)所用があり、議員会館にある甘利大臣の事務所を訪問しましたが、秘書時代に親しくしていた仲間たちに話を聞くと、衆議院の解散がいよいよ近いようです。

今回の選挙は、一部のマスコミや野党からは「大義名分のない選挙」とか「焦点のない、自民党の都合による解散総選挙」などといわれています。しかし、ここで詳しくは書けませんが、与党内には大規模な選挙を同一年度に行って欲しくない勢力がある等、色々な事情があるように思えてなりません。

また、今朝(11月14日朝)現在、解散の目的や有無については明らかにされていませんが、長い間甘利代議士の秘書を務めた感覚で言うと、例えばGDP7～9月期の速報値が大幅に改善される事による社会保障の財源と財政再建という両面から来る、消費税率2%増に対する国民の判断とか、あるいは北朝鮮拉致問題の大幅な前進とか、そうした実績などがあがる事に期待をしながら19日を待ちたいと思います。

さて、今号では平成25年度決算状況の分析として【政策3：共に考え 共に歩む 安心のまち】として、市民部が所管する施策についてお伝えして参りたいと思います。

政策3に於ける施策は13の施策から構成され、その主なものとしては、市政広報(6,160万5千円余)や防犯(4,533万8千円余)、防災・減災(1億1,113万5千円余)等、およそ10億1,972万円余が、市政広報や市民広聴、市民の皆様の安全・安心に使われました。

平成25年度、この施策の中で特に注目していただいたのは、昨年12月の一般質問でも取り上げた市政広報戦略、とりわけ「HPリニューアル」です。3,297万円を執行した本施策では、市HPのサーバーとクラウド化し、より見やすく・より探しやすいHPにするために、全面改修が行われています。その成果は、HPへのアクセス件数の大幅増という形で表れています。

また、以前にもお知らせしておりますが、市内7千を超える防犯灯がLED化されたのも、当該年度で、市民の皆さんからは「まち全体が明るくなった」などの声が寄せられています。

平成24年度からスタートした、「座間市いっせい防災行動訓練『シェイクアウト』」の第二回目として開催された今回は、座間市の昼間人口の4割を超える43,176名が参加登録のもと実施されました。「生き残らなければ何も始まらない」をスローガンに、決められた時刻に机の下に隠れるなど地震が起きた直後にとるべく行動を実践しようというもので県内初の試みとして実施され、先進的な事例として国内各地でも紹介されているもので、毎年1月23日午前11時に実施することが決まっています。

その他、築後50年近くが経過している消防本部庁舎がキャンプ座間返還予定地に移築するための基本設計費なども平成25年度の事業として予算執行されています。

火消しの涙？

去る11月8日、東京臨海広域防災センターにて「全国消防操法大会」が開催されました。

今大会には、7月の神奈川県消防操法大会に座間市の代表として出場した座間市消防団第三部が、本市消防団史上初の最優秀賞に輝き、県の代表として出場していました。

この大会には47都道府県から、ポンプ車操法の部(24チーム)と小型ポンプ操法の部(24チーム)、計48チーム(東京のみ各1チーム)が出場し、操法の技術を放水に要する時間と節度(技術点)で競い合います。

ポンプ車操法の部の3番手として出場した座間市消防団は、素晴らしい演技を披露し、審判の採点基準のハードルを一気に高め、その後のチームは軒並み低得点が続いた結果、前回大会優勝の長崎県壱岐市消防団の後塵を拝しましたが、準優勝という神奈川県消防団として初の快挙を初出場で成し遂げました！

歳のせいか涙もろくなった私は、演技終了後に涙ぐみ、今回の演技の指揮者を務めた高波君と会ってお祝いの言葉を伝えた際には、号泣して周囲の失笑を買いました(^^;)